

令和元年度「土壌医の会全国協議会」事業報告

I. 定例会議

1. 第1回幹事会

日 時：令和元年7月19日（金）午後2時～午後4時30分

会 場：片倉コープアグリ（株） 15階会議室

東京都千代田区九段北1丁目8番10号 住友不動産九段ビル15階

出席者：

- ・来賓：農林水産省生産局農業環境対策課 課長補佐 白垣龍徳 氏
- ・幹事：会長 野口勝憲、副会長 上野秀人、調査研究部会長 長谷川雅義、土づくり普及部会長 猿田年保
幹事他4名 出席幹事合計8名 欠席幹事5名。
- ・幹事候補：根本浩（札幌土壌医の会会長）
- ・監事：今井伸治（前公財 日本肥糧検定協会理事長）
西出邦雄（一社 全国肥料商連合会 専務理事）
- ・幹事候補：村口典行（一社 全国肥料商連合会 常務理事兼事務局長
- ・顧問：小林新（JA全農耕種資材部技術対策課長）
猪股敏郎（一財 日本土壌協会 専務理事）
日高 伸（一財 日本土壌協会 常務理事）
事務局（一財）日本土壌協会 知念、高橋、越谷

開 会

- (1) 開会挨拶 土壌医の会全国協議会 会長 野口勝憲 氏
- (2) 来賓挨拶 農林水産省 農業環境対策課 課長補佐 白垣龍徳 氏
- (3) 議事録署名人選任（株）松本微生物研究所 技術普及部長 猿田年保氏を選任
- (4) 土壌医検定試験・資格登録事業の動向について

議 事

- (1) 第1号議案 平成30年度事業報告（案）と収支決算（案）承認の件
（監査報告）
- (2) 第2号議案 令和元年度事業計画（案）と収支計画（案）承認の件
- (3) 第3号議案 役員改選の件

幹事・監事の選任

退任幹事：橋本崇（和歌山農業大学校就農支援センター主査）

退任幹事：清澤正幸（日本肥糧取締役開発普及部長日本肥糧土壌医の会会長）

新任幹事：根本浩（根本農場代表 札幌土壌医の会会長）

退任監事：西出邦雄（一社）全国肥料商連合会 専務理事

新任監事：村口典行（一社）全国肥料商連合会常務理事兼事務局長

他の幹事・監事はすべて再任された。

報告事項

- (1) 土壤医の会正会員とそれ以外の方とのメリットの相違について
- (2) 土壤医の会の年会費の徴収方法について
- (3) 有効態リン酸含量とハウレンソウ及びコマツナの生育について
- (4) 地域土壤医の会と全国協議会の共催による「地域重要問題研修会」について
- (5) 土づくりコンソーシアムの設立について

閉会挨拶 土壤医の会全国協議会 会長 野口勝憲 氏

情報交流会 午後5時～7時 参加者13名

土佐かつお料理の「わらやき屋九段下」

2. 第2回幹事会

日 時：令和元年11月7日(木) 午前10時15分～12時

会 場：千代田区立日比谷図書文化館 4階 セミナールームA

千代田区日比谷公園1-4 電話：03-3502-3345

出席者：来賓：(一財)日本土壤協会 会長 松本總

(一財)日本土壤協会 副会長 牛久保明邦

・幹事：会長 野口勝憲、調査研究部会長 長谷川雅義、土づくり普及部会長 猿田年保 幹事他6名 幹事合計9名 欠席幹事3名。欠席顧問1名

・監事：今井伸治(前公財 日本肥糧検定協会理事長)

村口典行(一社 全国肥料商連合会常務理事兼事務局長)

・顧問：小林新(JA全農耕種資材部技術対策課長)

猪股敏郎(一財 日本土壤協会 専務理事)

開 会

(1) 開会挨拶 土壤医の会全国協議会 会長 野口勝憲 氏

(2) 来賓挨拶 (一財)日本土壤協会 会長 松本聰 氏

議 事

(1) 令和元年度の事業の経過報告

・地域土壤医の会の活動と今後の計画

(2) 優良土づくり推進活動表彰制度改正の経過と内容

(2)-1 優良土づくり推進活動表彰実施要領の一部改正

(2)-2 令和元年度 優良土づくり推進活動表彰応募要領

(2)-3 優良土づくり推進活動表彰の審査規定

(3) 「土壤医資格登録と継続研鑽に関する要綱」改正の経過と今回改正のポイント

(3)-1 土壤医資格登録と継続研鑽に関する要綱一部改正

(4) その他

(4)-1 土壤医の会正会員と資格登録者の業務推進上のメリット

(4)-2 土壤医の会等の活動に対する助成要綱について

(4)-3 令和元年度土壤医の会等活動に対する助成要綱に基づく事業の公募要領について

(5) 別紙資料

5) - 1 土壤医の会の組織化の現状

(5) - 2 土壤医検定試験の受験者数の動向と2019年度土壤医検定試験の実施概要

(5) - 3 土壤医検定に関する研修会の実施概要

(5) - 4 基調講演資料

(5) - 5 第1回幹事会議事録

閉会挨拶 土壤医の会全国協議会 会長 野口勝憲 氏

II. 第3回全国交流大会

日 時：令和元年11月7日(木) 13:30～16:45

会 場：千代田区立日比谷図書文化館 地下1階 大ホール

東京都千代田区日比谷公園1-4 電話：03-3502-3340

主 催：土壤医の会全国協議会(事務局(一財)日本土壤協会)

参加者：約100名

プログラム

1. 開会挨拶 土壤医の会全国協議会 会長 野口勝憲 氏

2. 来賓挨拶 農林水産省生産局農業環境対策課 課長 及川仁 氏

3. 優良土づくり推進活動の表彰

(1) 審査講評

(2) 表彰状と副賞授与

1) 農林水産省生産局長賞：

柴田敏光氏(札幌土壤医の会(JA道央))

2) 日本土壤協会会長賞(最優秀賞)

(個人部門)

岩館康哉氏(土壤医の会全国協議会正会員(岩手県農業研究センター))

土屋汐里氏(生科研土壤医の会)

(土壤医の会部門)

日本肥糧土壤医の会

片倉コープアグリ土壤医の会

3) 全国協議会会長賞(優秀賞)

(個人部門)

真貝文行氏(新潟県土壤医の会(新潟県村上地域振興局農林振興部))

石野和孝氏(土の匠土壤医の会)

大井泰輔氏(片倉コープアグリ土壤医の会)

谷田貝敦氏(首都圏土壤医の会(クリオン((株)))

(土壤医の会部門)

首都圏土壤医の会

片倉コープアグリ土壤医の会

(3) 表彰者からの活動成果の発表

日本土壌協会会長賞を受賞した、岩手県農業研究センターの岩館康哉氏が「土壌診断に基づいたキュウリホモプシス根腐病の総合防除対策の確立」について発表した。

4. 基調講演

演題：「植物共生研究の現状と展望：微生物の生活様式の理解と活用」

講師：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門

生物資源情報基盤研究グループ 主任研究員 菅野 学 氏

5. 部会活動報告

各部会長から活動報告の詳細は、事業報告の2の部会活動に記載。

- ・研鑽部会：野口部会長
- ・調査研究部会：長谷川部会長
- ・土づくり普及部会：猿田部会長

6. 令和元年度事業報告関係資料

各資料の要点の報告があった。

(1) 令和元年度事業計画

(2) 優良土づくりの表彰事業の改正の経過と内容

(2) - 1 優良土づくりの表彰事業の実施要領の一部改正

(2) - 2 優良土づくりの表彰事業の応募要領

(2) - 3 優良土づくりの表彰事業の審査規定

(3) 土壌医資格登録と継続研鑽に対する要綱改正の経過と今回改正のポイント

(3) - 1 土壌医資格登録の継続研鑽に関する要綱一部改正

(4) 土壌医の会の正会員や資格登録者の業務推進上のメリット

(5) 土壌医の会の活動に対する助成要綱

(5) - 1 令和元年度土壌医の会等の活動に対する助成要綱に基づく事業の公募要領

7. 閉会挨拶 土壌医の会全国協議会 会長 野口勝憲 氏

情報交流会：午後5時～6時45分 地下1階 レストラン「プロント」で開催
参加者33名

Ⅲ. 事業報告

1. 重点課題の推進

(1) 空白地域を中心とした地域土壌医の会の組織化

土壌医の会全国協議会、(一財)日本土壌協会と連携して組織化の核となる方を見出し、その方を中心とした空白地域(特に、東北、北関東、中国、南九州地域等)の組織化を進めた結果、中国、九州地区を中心に5つの地域土壌医の会が結成された。令和2年3月31日時点の土壌医の会の組織化の現状は、会の総数31(うち事業体土壌医の会13、地域土壌医の会18)である。

地域土壌医の会の結成を重点に進めた結果、地域土壌医の会が事業体土壌医の会

を5上回った。

令和元年度に結成された地域土壤医の会

設立日	名称	会長	事務局所在地	区分
7月18日	九州土壤医の会	大畑和生	長崎県	地域土壤医の会
7月25日	山陰土壤医の会	松本真悟	島根県	地域土壤医の会
9月17日	福岡土壤医の会	一百野昌世	福岡県	地域土壤医の会
12月3日	北部九州土壤医の会	染谷孝	福岡県	地域土壤医の会
2月3日	宮崎土壤医の会	赤木康	宮崎県	地域土壤医の会

(2) 土壤医の会正会員拡大と継続研鑽、交流活動の促進

土壤医の会の活動を盛り上げ、正会員を増やしていくと共に、社会的認知度を高めていくことが重要である。

1) 31 土壤医の会の全体の正会員数 (単位：名)

正会員	平成30年度決算(A)	令和元年度決算(B)	対前年増減
ゴールド会員	70	68	2
シルバー会員	343	370	27
合計	413	438	25

2) 資格登録者や土壤医の会の正会員になるメリットをPR

資格登録や土壤医の会の正会員になるメリットを「土壤医の会正会員とそれ以外の方との業務推進上のメリットの相違」が分かる一覧表を作成し、配布とHPでPRした。

資格登録者になると、名刺等に肩書きが書けるとともに、研修会等の参加割引があり研鑽しやすくなる。さらに、土壤医の会に属していると、研鑽機会や交流機会が拡大するが、土壤医の会の正会員になるとCPDの申請や取得がやりやすくなるとともに、資格が活用される場面が広がっている。

3) 土壤医の会の土づくり普及活動とCPD単位取得機会の拡大

地域土壤医の会では、土づくりの普及活動と相まって正会員拡大が進められている。特に、会員以外の方(農業者、農業法人、農協などの農業従事者、市民・体験農園等の利用者、行政職員等)を対象とした土づくり研修会講師やpH等測定診断相談会の指導者等、さらに農業高校、農業大学校などへの土づくり普及のための出前研修の講師が行われている。

これらの活動は土壤医の会の認知度と社会的評価を高める活動であり、これに関する「CPD単位取得メニュー」が増えた。具体的には、活動成果について、小さな業績でもCPD申請を可能とするとともに、土壤医の会として一定の土づくりの成果をあげた場合は関係した会員にCPD単位が加算されるように「土壤医資格登録と継続研鑽に関する要綱」が一部改正(令和元年9月)された。地

域土壤医の会の活動内容を広く知ってもらうために、14の「地域土壤医の会の案内情報」を土壤医の会全国協議会のHPにアップした。

4) 第2回優良土づくり推進活動表彰実施

土壤医等の土壤医の会の社会的認知度向上と活動成果の向上を狙いとした「優良土づくり推進活動表彰」は、令和元年度11月7日(木)千代田区立日比谷図書文化館 地下1階 大ホールで土壤医の会全国協議会と(一財)日本土壤協会の共催により行われた。本年度は、新たに農林水産省生産局長賞が設けられ、柴田敏光氏(札幌土壤医の会(JA道央))が受賞した。

2. 部会活動

【研鑽部会】

地域土壤医の会の組織化を中心に推進するとともに、土壤医の会の会員拡大と研鑽、交流活動の促進、優良土づくり推進活動の表彰の推進を図った。

土壤医の会全国協議会の行事として、第3回全国交流大会の開催や全国土壤改良資材協議会、(一財)日本土壤協会等と共催による研修会を行った。

(1) 第3回全国交流大会の開催

多くの方の関心の高いテーマの講演、資格登録者や土壤医の会の会員拡大と研鑽、交流活動の促進、優良土づくり活動の表彰の推進を図るため、第3回交流大会を11月7日(木)に千代田区立日比谷図書文化館 地下1階 大ホールで(一財)日本土壤協会と共催により開催した。

「優良土づくり推進活動表彰」は、本年度は、新たに農林水産省生産局長賞が設けられ、柴田敏光氏(札幌土壤医の会(JA道央))が受賞した。

(2) 全国土壤改良資材協議会との共催による研修会(CPD単位対象研修会)

1) 演題:「米国カリフォルニア州における有機農業と米国微生物資材の基準と利用」

- ・日時:平成31年4月17日 午後3時~4時45分
- ・講師:カリフォルニア大学サンタクルーズ校環境学科 村本穰司 氏
- ・参加者:49名(内土壤資格登録者16名)

2) 演題:「有機物と土壤物理性」

- ・日時:令和元年5月28日 午後3時~4時45分
- ・講師:国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
農業環境変動研究センター 物質循環研究領域 水質影響評価ユニット
主席研究員 吉川省子 氏

- ・参加者:71名(内土壤医等資格登録者22名)

3) 現地研修会:「秋の合同現地研修会長野県松本地域」

- ・日程:令和元年9月12日・13日
- ・視察地:長野県野菜花き試験場、果樹圃場、ワサビ農場視察
- ・協力:信州土壤医の会
- ・参加者:36名

4) 演題:「微生物叢のビッグデータを農業に活かす」

- ・日時：令和元年12月16日 午後3時～4時45分
- ・講師：京大生態学研究センター 准教授 東樹宏和 氏
- ・参加者：52名（内（土壌医資格登録者等16名）

(3)(一財)日本土壌協会との共催による研修会

1) 名称：初級・中級レベル実践研修会

- ・日程：令和元年11月30日・12月1日
- ・場所：片倉コープアグリ(株)筑波総合研究所(土浦市)
- ・参加者：10名 講師・事務局5名 合計15名 交流会 14名

2) 「土づくり推進フォーラム」や「土づくり推進シンポジウム」を共催で行った。

【調査研究部会】

(1) 地域重要問題研究会

兵庫県淡路島において耕畜連携や土壌病害に関する課題解決を検討し、これらを通じて全国に共通した問題解決及び土づくり指導の参考に資するため、下記のとおり研修会を土壌医の会全国協議会との共催により兵庫県淡路島で行った。

- ・日程：令和元年11月26日(火)・27日(水)
- ・対象地域：兵庫県淡路島
- ・参加者：講師を含めて30名
- ・参加費：18,000円(資料代、交通費、宿泊費を含む) 情報交換会費：5,000円
- ・行程の概要は以下の通りである。

「1日目」

JR新神戸駅に集合してバスで淡路島へ向かった。車中で野口勝憲土壌医の会全国協議会会長の開会挨拶に始まり、開催地である間藤徹近畿土壌医の会会長の挨拶があった。これに続いて、土壌医の状況等が紹介された。

吉備国際大学南あわじ志知キャンパス

講演：淡路地域における野菜類の病害発生

講師：吉備国際大学 教授 相野公孝 氏

淡路島の特産品であるタマネギやレタスで問題となっている病害について豊富なデータに基づいた対策を紹介された。このあと、実験室や栽培施設を視察した。

「2日目」

宿舎から兵庫県淡路農業技術センターへの移動中に車窓から南あわじの土壌管理や栽培品目の特徴について講義を受けた。

兵庫県立農林水産技術総合センター淡路農業技術センター

- ・同センターの真野隆司課長から淡路島の農業生産全般についての説明と場内の試験ほ場を視察した。
- ・南淡路農業改良普及センターの吉富千晶氏からホールクroppサイレージを活用した、この地域ならではの耕畜連携の推進についての講演。
- ・兵庫県立農林水産技術総合センターの大塩哲視主任研究員から淡路島の土壌分布の特徴について、これまでの土壌調査の成果を含めて紹介があった。

・移動の車内において土壌協会の猪股専務理事から土壌医の会の活動状況の報告と兵庫県立農林水産技術総合センターの本田理主任研究員から淡路島の農業生産についての詳細な解説があった。

(1) 土壌診断を効果的に実施するためのデータベースの整備

「有効態リン酸含量とハウレンソウおよびコマツナの生育」

資格登録者等が適切な土壌診断と処方箋作成を、効率的に行うためのデータ整備として以下の調査・試験を行った。

1) 目的

有効態リン酸含量に対する反応は野菜の種類によって異なり、ハウレンソウとコマツナは生育に適する有効態リン酸含量が異なると推定される。そこで、有効態リン酸含量とこれらの生育の関係を調査する。

2) 方法

供試土壌(砂丘未熟土)について過リン酸石灰を用いて有効態リン酸含量を7段階(4.5~300 mg/100g)に設定した。各ポットの窒素と加里は各40 mg/100gとなるように硫酸と塩化加里で調整し、ハウレンソウとコマツナの栽培試験を実施した。

3) 結果

播種39日後にハウレンソウ、35日後にコマツナの生育状況を観察した。その結果、生育に最も適する有効態リン酸含量はハウレンソウで50 mg/100g、コマツナで20 mg/100gであり、相違が認められた。結果については第1回幹事会で報告を行った。

【土づくり普及部会】

農業高校等の出前研修の推進とともに、会員外の方々への土づくり普及や土壌医検定試験・資格登録制度等の認知度向上に向けた活動を行った。

(1) 農業高校等3校への出前研修の実施

学校名	実施日	講師	出席者
高知県立農業大学校 (3級受験研修会)	令和2年1月25日・ 2月8日	山崎浩司((高知県土壌医 の会会長 土壌医)	23名
徳島県立農林水産総合 技術支援センター (2級受験研修会)	令和2年2月1日	梯 実人(土壌医)	40名
大分県立農業大学校 (3級受験研修会)	令和2年2月7日	小野忠(大分土壌医の会)	23名

*前年度は、1校